

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)乙第1741号	氏名	井手 達
論文審査担当者		主査教授	下川 功
		副査教授	小路 武彦
		副査教授	永安 武
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、肝外門脈閉塞症の病因を明らかにするための実験モデルとして、門脈内エンドトキシン血症モデルを検索した点で、研究目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価</p> <p>家兔のシュワルツマン反応を応用した実験モデルにおいて、経時的な組織学的変化を、種々の染色方法にて観察し、画像解析による半定量的な解析を加えた研究手法は適切である。</p> <p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、本モデルは生理的に近い条件で門脈血栓症を誘発し、血栓症早期の異常海綿状脈管の増生が門脈枝由来であることを明らかにし、これが肝外門脈閉塞症の原因の一つである可能性を示唆したことは、十分に評価できる。</p> <p>以上のように本論文は肝外門脈閉塞症の病態解明に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			